International Sirenian Symposium
サイレニアン・シンポジウム概要（その３）

2011年11月27日にアメリカ合衆国フロリダ州タンパで行われたシンポジウムの会議次第と報告のタイトルを37号で紹介し、38号ではポスタープレゼンテイションの概要を報告しました。今回は会議での第１セッション報告の概要を紹介します。

（国際部）

セッション１　保 護 と 管 理 に つ い て

（８人のスピーカー 1人１０分）

∞∞∞

∞∞∞

たくなかった時期からボランティアが開始されていた。計画実施から 10 年を経て、連邦政府は計画についての見直しと、アップデイトされた新計画を 2010 年に作成することを求めた。ここでは回復計画の背景、主要な障害とチャレンジについて報告する。

∞∞∞

マナティー保全の推進のためにわたしたちは各種のプレゼンテイションを行い、教育的資料を配布し、ワークショップを催し調査・保全活動への住民参加を促した。それに加え、わたしたちは地域漁業者、ダイバーそれにフィッシングガイドたちによるマナティー観察のためのボランティアネットワークを組織した。調査の結果、船舶による危害は極めて小さいが、漁獲や魚網による錯誤捕獲は主要な懸念事であり続けていることがわかった。本報告では教育的、また住民による認識を高めるための取り組みの結果および、調査結果が研究分野におけるマナティー保全行動にどのような影響を及ぼしたかについて述べる。これらの結果は Cuban National System of Protected areas への提言作成のために使われた。

∞∞∞

メキシコではマナティーは絶滅危惧種とされている。歴史的にはマナティーは食用に供され、油、骨、革は経済的、文化的また祭礼に関わる目的に使われていた。1999年にわたしたちは Alvarado Lagoon System（ALS）におけるマナティーとその生息地保護のための自然環境面についての認識を高めるためのプロジェクトを立ち上げた。ALS は Veracruz 州におけるマナティー保護に関わる最も重要な地域である。従前には ALS でマナティーは広く利用されていた。わたしたちは ALS 住民に対する聞き取りを行い、マナティーの歴史的分布状態を特定し、彼らとその生息地に対する目前にある脅威と今後考え得る脅威について明らかにしたいと考えた。得られた情報に基づき、Environmental Awareness, Conservation, and Manatee Rescue Campaign（自然環境についての認識、保全、マナティー救護キャンペイン）が展開された。1999年から2003年の間に4頭（3頭の幼獣と1頭の未成熟個体）のマナティーが救護された。わたしたちのキャンペインの主要対象は漁業者、子ども、主婦、二枚貝採取者、ハンターそれに ALS 地区と Alvarado 市の公的な文化団体だった。わたしたちの活動により ALS のマナティーおよびその他の絶滅危惧種の保全と自然資源保全についての関心が高まった。わたしたちが組織した ALS でのイベントには延べ500人の成人と300人の子どもが参加した。Alvarado 市では250人以上の人々がわたしたちのワークショップやその他の活動に参加した。1999年に立ち上げられた Technical Advisory Subcommittee for the Conservation, Management and Recovery of Manatee in Mexico （メキシコマナティーの保全、管理、回復のための技術的助言小委員会）の支援を得てわたしたちのプログラムはメキシコの他の場所にも広げられた。わたしたちはいま、小委員会及びその他の関係組織と共に ALS におけるマナティー回復計画を作成中である。マナティーの捕獲は禁止されたが、商業的な活動にともなう錯誤捕獲は止まらず Veracruz でのマナティー保全に関わる主要な脅威であり続けている。

∞∞∞